

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 稲葉勝利

1. 概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

歩行名称	東北西ブロック 4
歩行区間詳細	スタート地点:仁賀保駅
	ゴール地点:象潟駅
実施期間	2022年4月14日（木）
全歩行距離	13.9km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	稲葉 勝利	76	1	12期

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	4/14	仁賀保→象潟	13.9km	稲葉	

4. 5 東北西2に記載

6. 歩行の詳細

4月14日（木）天気 曇り一時小雨

酒田駅 6:34...7:20 仁賀保駅 7:25→8:05 黒川→8:35 竹嶋潟→8:55 観音潟→9:15 金浦漁港→

10:10 島めぐりコース笹山→10:30 蚶満寺→10:51 象潟駅 11:17...11:59 酒田...海鮮市場→酒田 14:31

羽越本線に乗車すると当初は、鳥海山の南側の雄姿が、仁賀保駅まで来ると北側の雄姿が見られる。11時前には象潟駅に到着しなければならないのでこの日はやや急ぎ足で歩行する。そのため仁賀保の海岸近くにも庚申塔があるとの情報もあったが今回は割愛して先を急ぐ。黒川地区には庚申塔はなかったが牛頭観音塔等巨大な自然石の石碑が多く建立されている。この自然石は近くで産出するものであろうか。この付近でもキザキイゲの群落が見られた。

竹嶋潟及び勢至公園の桜は丁度満開の時期であった。来る前のネットではまだつぼみであったが、気温が高い日が続き一気に咲いたのであろう。竹嶋潟周辺は南極公園の名があり、金浦出身の白瀬中尉にちなみ「白瀬南極探検隊祈念館」があるがこれも割愛する。



仁賀保から見た鳥海山



コブシに囲まれた巨大な石碑



桜満開の竹嶋潟

勢至公園内の観音瀉を手前に満開の桜の上に聳える鳥海山は一幅の絵となる。波静かな湖面に鳥海山の姿が映ったら最高であったが。勢至山・木の浦山と観音瀉のほとりに江戸末期の勤王・佐幕に揺れる社会情勢のなか、村の発展と安全を祈願して建立された金浦西国三十三観世音菩薩がある。

余裕時間ができてきたので、金浦漁港方面に今回の日程では初めての青面金剛碑が建立されているという情報があったので、向かったが、発見できなかった。それに代わって、九十九島に向かうため、7号線から外れ、線路側の小道を入ったところに、青面金剛文字塔があった。一般的には青面金剛は庚申塔を指すので、三猿がないが、庚申塔であろう。同様な塔は蛸満寺境内で九十九島「島めぐり」コースのスタート場所にもあった。線路を渡りコースを逆に回って蛸満寺に行く。鳥海山を背景とした九十九島はやはり見応えがある。

蛸満寺境内には芭蕉の像に横に場違いな感じの中国四大美女の一人「西施」の像が建っている。芭蕉はその句

「象瀉や 雨に西施が ねぶの花」に 救国のため敵国に身を捧げた悲劇的な美女西施を、松島に比べて「うらむがごとし」と象瀉の風景に似通うものとして詠った。この句より、碑が建立されたという。句から見ると当時の風景は松島に劣っていたのだろうが、土地の隆起により、現在の田園地帯に浮かぶ風景になったのは他にないため却って良かったかもしれない。

象瀉駅にはほぼ予定通りに到着したので、酒田で下車し、海鮮市場で昼食をとる。ただし再び予定通りにはいかなかった。注文を予定した数量限定メニューは全て完売しており、予定外の海鮮料理となった。そのためか同じ市場の他のマグロの食堂の方が多くの客が並んでいた。その後、昨日歩かなかった箇所を探訪しながら駅に着き、全ての計画は完了した。

今回の歩行で観察した庚申塔は酒田市街地 5ヶ所 8基、その他 13ヶ所 21基であった。

庚申塔は当初、仏教の各宗派、神道それぞれに主尊があり、また像の持ち物や、三猿、邪鬼等の姿態や容貌も変化に富み、その多様性を観察することが、魅力の一つになっている。この点では今回の庚申塔は青面金剛の文字塔を二基見ただけで、他は全て「庚申」あるいは「庚申塔」だけが刻字されたものであったのは物足りなかった。近くの「羽黒山」や「鳥海山」の碑以上に多くの庚申塔が、ほとんどの村に建立されていたことは、一般庶民の間に健康・安全に対する祈願が強かったことを示している。又刻字内容と建立場所から、酒田市街地を除いたものは特定の講の方たちが建立したのではなく、村として建立し、外から侵入する疫病を防ぐとともに村の安全を祈願したようだ。



観音瀉と鳥海山



三十三観世音菩薩の 31 番



九十九島